

体験談 5

『やっと巡り合えた集団の場』 Part2

そんな時、担当保健師の方がとても親身になって話を聞いてくれました。初めに主治医から言われた普通の子どもの集団に入れたらとても成長する ということも理解してくださり、一時保育を使って預けたりもしていました。ただ療育はしたほうが良いのではないかと何度も提案されました。私もすごく揺れ動きましたし、実際見学には何度も行きました。主治医にも相談しましたが、やはり最初と変わらず「普通の子ども集団に入れたほうが良い」ということだったので三歳から通えるそういった場所を探すことにしました。

やっと巡り合えた集団の場は、障がいがあっても他の子どもと分け隔てなく育ててくれるところでした。親子で大きく学び、私たち親子の礎はそこにあります。でもそれとは別に、療育はしなくて本当にいいのか？大丈夫なんだろうか？という不安から何度も悩みました。最終的に夫婦でたくさん話し合っただけで療育機関には行かないという選択をしました。

そんな息子も今年で16歳になりました。通って来た道が本当にベストだったのかわかりません。もちろん息子の将来のために療育をしたほうが良いのではないかとというのが大前提ですが、振り返ると 療育をしない＝障がいを受け入れてない と思われるのではないかとか普通の子ども集団に入れることは親のエゴだと思われるのではないかとかという人にもどう思われるのかということにとってもこだわっていたのだと思います。自分の考えに自信が持てなかったのです。でも結局どう思われるかよりどう育てたいのかをその都度優先してここまで走ってきたように思えます。私たちは、どう育てたいかを優先して本当によかったと思っています。まだ子育ては続きますが、大きくなると本人の意思があるので、今は親の思いよりもそれを優先に考えています。なんといっても彼の人生ですから！

